

令和 6 年 度

高 知 県 文 化 賞 受 賞 者
事 績 概 要

高 知 県

よし むら
吉 村

いさお
庸 氏

91歳

現住所

吾川郡いの町



1 経歴の概要

昭和32年 3月	高知大学文理学部卒業
昭和32年 4月～	私立高知学芸高等学校講師、同年9月より教諭 (～昭和40年3月)
昭和40年 4月～	高知県安芸郡馬路村立馬路中学校教諭 (～昭和42年9月)
昭和42年 6月	米国テネシー大学大学院修士課程修了
昭和42年10月～	財団法人服部植物研究所研究員 (～昭和50年3月)
昭和45年11月	東京教育大学より理学博士の学位を受く
昭和50年 4月～	高知学園短期大学教授 (～平成14年3月)
平成12年 4月～	高知学園短期大学学長 (～平成14年3月)
平成14年 8月～	公益財団法人服部植物研究所研究員高知分室長 (現在に至る)

2 社会における主な活動内容

昭和47年 4月～	財団法人服部植物研究所監事 (～平成4年8月)
昭和55年 1月～	国際地衣学会評議員 (～昭和61年)
昭和59年 7月～	伊野町教育委員会委員 うち9年は教育委員長 (～平成16年)
平成 4年 8月～	公益財団法人服部植物研究所理事 (現在に至る)
平成14年 2月～	日本地衣学会初代会長 (～平成17年12月)

3 受賞歴

昭和46年	宮崎県文化賞(学術)
平成16年	文部科学大臣表彰(教育功労)
平成20年	国際地衣学会アカリウス賞

4 事績の概要

氏は、地衣学の研究において200報以上の論文を発表するなど、長年にわたり日本の地衣学研究をリードし、特にカブトゴケ科の研究と化学分類の分野においては、世界の地衣学の発展に貢献した。こうしたことから、昭和46年に宮崎県文化賞、平成20年には国際地衣学会アカリウス賞を受賞。また、令和6年にはこれまでの研究の集大成である「地衣分類形質としての二次代謝産物の簡易同定と日本産地衣類の化学分類」を出版するなど、これまで3冊の著書を執筆し、普及啓発にも尽力した。

さらに、卓越した学識を持って地域の教育及び教育行政の発展にも尽力し、本県の文化向上に大きく寄与したとして平成16年に文部科学大臣賞（教育功労）を受賞。

以上のことから、氏の活動は学術の発展に寄与しており、長年にわたる活動の功績は大きい。

の まち かず よし 野 町 和 嘉 氏

78歳

現住所 東京都新宿区



1 経歴の概要

昭和40年 3月 高知県立高知工業高等学校卒業
昭和44年 2月～ 写真家・杵島 隆氏に師事（キジマスタジオ）
（～昭和46年3月）
昭和46年 4月～ フリーの写真家となる（現在に至る）

2 社会における主な活動内容

平成19年 4月～ 大阪芸術大学写真学科客員教授（～平成28年3月）
令和 元年 5月～ 公益社団法人日本写真家協会会長
（～令和5年5月）
令和 5年 5月～ 公益社団法人日本写真家協会名誉会員
（現在に至る）

3 受賞歴

昭和54年 日本写真協会新人賞
昭和57年 米国報道写真家協会年度賞銀賞
昭和59年 第3回土門拳賞
平成 2年 芸術選奨文部大臣新人賞
平成 2年 日本写真協会年度賞
平成 5年 講談社出版文化賞
平成 9年 日本写真協会年度賞
平成 9年 東川賞国内作家賞
平成14年 大同生命地域研究特別賞
平成18年 藤本四八写真文化賞
平成18年 高知県出版文化賞50周年記念大賞

平成 18 年	よんでん芸術文化賞
平成 21 年	紫綬褒章
平成 26 年	日本写真協会国際賞

4 事績の概要

氏は、昭和 46 年からフリーの写真家として過酷な風土を生き抜く人々の営みと信仰をテーマに、中近東、アフリカ、南米など世界各地を取材・撮影している。写真集「サハラ」や「ナイル」を通じ、日本のみならず世界の写真文化に影響を与えた。

それらの功績により、昭和 59 年には第 3 回土門拳賞を、平成 9 年には東川賞国内作家賞を受賞。また、平成 21 年には紫綬褒章を受けている。

本県では、県立美術館等にて展覧会を開催し、故郷である三原村には長年作品を寄贈するなど本県の文化振興にも大きく貢献している。

以上のことから、氏の活動は芸術の発展に寄与しており、長年にわたる活動の功績は大きい。